

報道関係者各位

2023年2月20日

国立成育医療研究センター

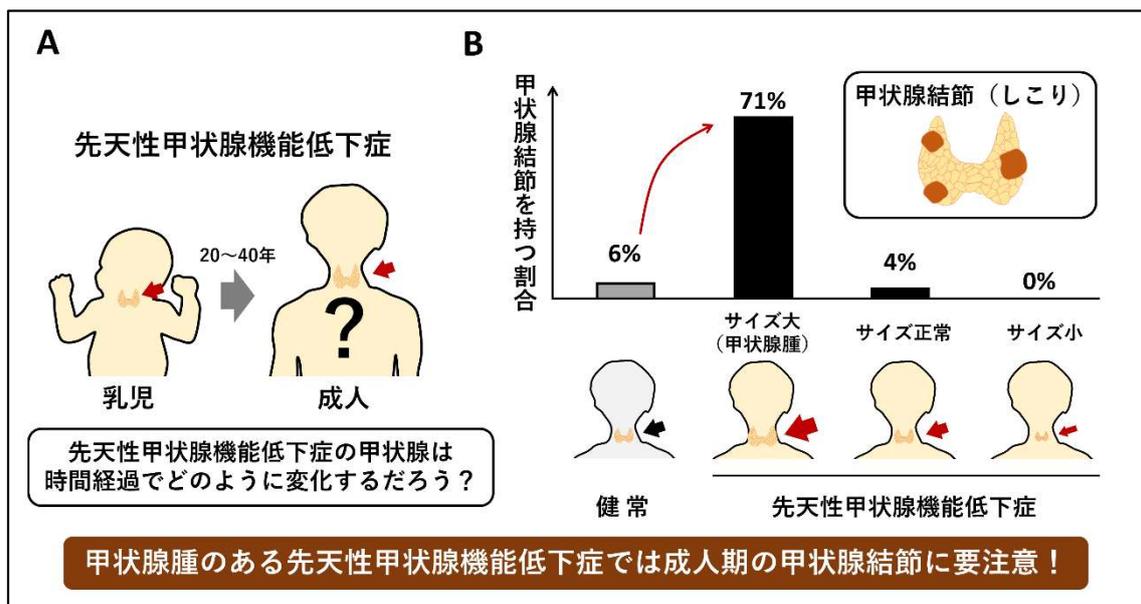
先天性甲状腺機能低下症で甲状腺腫がある成人患者は、
「甲状腺結節（甲状腺のしこり）」に注意
～超音波検査などによる長期的フォローアップを～

国立成育医療研究センター（所在地：東京都世田谷区、理事長：五十嵐隆）の分子内分泌研究部 鳴海覚志室長は、伊藤病院（東京都渋谷区、病院長：伊藤公一）の渡邊奈津子内科部長、杉澤千穂医師と共同で、生まれつき甲状腺ホルモンを作ることができない先天性甲状腺機能低下症の成人患者 103 名を対象とした調査研究を行いました。

血液検査と画像検査の結果を詳しく調べたところ、甲状腺腫（甲状腺が大きくなった状態）がある先天性甲状腺機能低下症の患者の 71%に、甲状腺結節（甲状腺にできるしこり）*が見られました。これは、健常者と比べて著しく高い割合です。甲状腺が大きくなっている先天性甲状腺機能低下症の成人患者では、超音波検査で甲状腺の状態を注意深く観察していく長期的なフォローアップが重要であると言えます。

本研究成果は、米国の甲状腺学専門誌『Thyroid』で 2023 年 2 月 15 日にオンライン公開されました。

*甲状腺結節 豆粒大からゴルフボール大まで、しこりの大きさは様々ですが、本研究では直径 1 cm を超えるしこりを甲状腺結節と定義しました。多くの甲状腺結節は良性ですが、悪性の場合もあるため画像検査や針生検の所見に基づき、その性質を見分ける必要があります。



【プレスリリースのポイント】

- 乳児期に診断される先天性甲状腺機能低下症患者の甲状腺が、成人期にどのような状態となっているかを調べたまとまった研究は、これまでありませんでした。
- 成人の先天性甲状腺機能低下症患者のうち、甲状腺が大きくなっている甲状腺腫がある患者の71%に、直径1 cmを超える甲状腺結節（しこり）が見られることがわかりました。
- 甲状腺が大きくなっている先天性甲状腺機能低下症の成人患者では、定期的な超音波検査で甲状腺の状態を注意深く観察していくことが必要です。

【背景】

先天性甲状腺機能低下症は生まれつき甲状腺ホルモンを作ることができない病気で、正確な統計データはありませんが、日本全国で約4~6万人の患者がいると考えられます。日本では1979年に新生児マススクリーニングの対象疾患に指定され、それ以来、大半の患者が乳児期に診断を受けるようになりました。現在では、乳児期に診断を受けた多くの先天性甲状腺機能低下症患者が成人年齢に達していますが、このような患者の甲状腺の状態を詳しく調べた調査研究がありませんでした（図A）。

【研究概要】

<対象>

先天性甲状腺機能低下症：次の項目をすべて満たす、103名。

- ・新生児マススクリーニングを通じて、先天性甲状腺機能低下症と診断された
- ・十分な甲状腺ホルモン補充療法がなされ、かつ、甲状腺超音波検査を受けている
- ・20歳以降に、伊藤病院を受診

健常者：プレコンセプションケアのため伊藤病院で血液検査、甲状腺超音波検査を受けた21~42歳の女性168名

<研究方法>

- ①超音波検査で測られた甲状腺のサイズに基づいて、甲状腺サイズ大（甲状腺腫、14名）、サイズ正常（24名）、サイズ小（65名）の3グループに分類
- ②血液検査と甲状腺超音波検査の結果を分析
- ③直径1 cmを超える甲状腺結節（甲状腺にできるしこり）を持つ患者の割合を調査

<研究結果>

甲状腺結節を持つ割合は、甲状腺のサイズが正常な患者では4%（1人）、サイズが小では0%（0人）であったのに対し、甲状腺腫（サイズが大きい患者）では71%（10人）と高くなっていました。年齢の近い健常者での割合（6% 10人）と比べても著しく高い割合で、甲状腺結節が生じていることが明らかになりました（図B）。また、先天性甲状腺機能低下症の原因検索として行った遺伝子解析では、甲状腺腫のある患者の約90%で甲状腺ホルモン合成に関わる遺伝子の異常が特定されました。

【今後の展望】

本研究では悪性の甲状腺結節（甲状腺がん）は見られませんでした。甲状腺腫がある先天性甲状腺機能低下症において、甲状腺がんの合併が見られたとする文献報告もあります。現時点では、先天性甲状腺機能低下症において甲状腺がんが合併する頻度は不明ですが、特に甲状腺腫がある患者においては、定期的な超音波検査により甲状腺の状態を注意深く観察していくことが望ましいと考えます。

【発表論文情報】

英文タイトル：『Adult Thyroid Outcomes of Congenital Hypothyroidism』

和文タイトル：『先天性甲状腺機能低下症の成人期の甲状腺』

著者名：杉澤 千穂^{1),2)}、鳴海 覚志³⁾、中尾 佳奈子³⁾、星山 綾子¹⁾、鈴木 菜美¹⁾、大江 秀美^{1),4)}、福下 美穂¹⁾、松本 雅子¹⁾、吉原愛¹⁾、渡邊 奈津子¹⁾、杉野 公則⁵⁾、菱沼 昭⁶⁾、吉村 弘¹⁾、加藤 良平⁷⁾、谷山 松雄^{1),2)}、伊藤 公一¹⁾

- 1) 伊藤病院 内科
- 2) 昭和大学藤が丘病院 糖尿病・代謝・内分泌内科
- 3) 国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部
- 4) 名古屋甲状腺診療所
- 5) 伊藤病院 外科
- 6) 獨協医科大学 感染制御・臨床検査医学
- 7) 伊藤病院 病理診断科

掲載誌：Thyroid

DOI : <https://doi.org/10.1089/thy.2022.0481>

【本リリースおよび本研究に関する問い合わせ先】

国立成育医療研究センター 広報企画室 村上

電話：03-3416-0181（代表） E-mail:koho@ncchd.go.jp